平成 21 年度（第 53 回）
岩手県教育研究発表会資料

外国語活動／外国語

「英語ノート」を活用した
外国語活動の指導の充実に関する研究

－学級担任単独による授業を中心とした授業案例の作成と活用をとおして－

平成 22 年２月 18 日
岩手県立総合教育センター
長期研修生
所属校　花巻市立矢沢小学校
小　椋　孝　史

目　次

Ⅰ　研究目的……1

Ⅱ　研究の方向性……1

Ⅲ　研究の内容と方法……1
　1　内容と方法……1
　2　授業実践の対象……1

Ⅳ　研究結果の分析と考察……1
　1　「英語ノート」を活用した外国語活動の指導の充実に関する基本構想……1
　(1)　「英語ノート」を活用した外国語活動の指導の充実に関する基本的な考え方……1
　(2)　「英語ノート」を活用した外国語活動の指導の充実に関する基本構想図……4
　2　授業案例作成・提示までの手順……6
　3　授業案例の作成……6
　(1)　一つ一つの活動のねらいの明確化……6
　(2)　学級担任の児童理解に基づく工夫・改善……7
　(3)　学級担任の実態に応じた英語運用……7
　4　授業実践及び実践結果の分析と考察……8
　(1)　対象及び授業実践期間……8
　(2)　単元計画……8
　(3)　単位時間の授業案例……10
　(4)　本時における児童理解に基づく活動への工夫・改善の計画……11
　(5)　授業実践の概要……12
　(6)　実践結果の分析と考察……14
　5　「英語ノート」を活用した外国語活動の指導の充実に関する研究のまとめ……16
　(1)　成果……16
　(2)　課題……16

Ⅴ　研究のまとめと今後の課題……16
　1　研究のまとめ……16
　2　今後の課題……17

＜おわりに＞

【引用文献】

【参考文献】

Ⅰ　研究目的

外国語活動は，コミュニケーション能力の素地を養うことを目標としている。その目標を達成するために，学習指導要領に準拠した教材として「英語ノート」が配布された。各学校では，「英語ノート」を，自校の実情や地域の実態，児童の興味・関心に合わせて活用することが求められている。

本県は，ほとんどの学校が「英語ノート」を活用して外国語活動の推進を始めたところであり，その拠り所としているのは，外国語活動の指導を支援するために作成された「『英語ノート』指導資料」である。「『英語ノート』指導資料」に示された授業案例は，すべての時間がＡＬＴとのティーム・ティーチングの形態での授業案例となっている。しかし，ＡＬＴの訪問回数の少ない本県においては，外国語活動の授業の大半は学級担任単独による授業となる。そのため，学級担任単独による「英語ノート」を活用した授業のイメージをもつことが難しく，多くの担任が不安を抱えながら外国語活動を推進しているのが現状である。

このような状況を改善するためには，限られたＡＬＴの訪問を最大限に活用しながらも，学級担任単独による授業を中心とした「英語ノート」を活用しての外国語活動の授業案例を提示することが必要である。

そこで，この研究は，学級担任単独による授業を中心とした「英語ノート」を活用しての授業案例の作成と活用をとおして，外国語活動の指導の充実に役立てようとするものである。

Ⅱ　研究の方向性

「英語ノート」を効果的に活用するための授業案例を作成し，授業実践の分析・考察をとおして提示する。

Ⅲ　研究の内容と方法

１　内容と方法

(1)　「英語ノート」を活用した外国語活動の指導の充実に関する基本構想の立案（文献法）

(2)　外国語活動の指導の充実を図る授業案例の作成（文献法）

(3)　授業実践及び実践結果の分析と考察（授業実践，観察法，記録法，質問紙法）

(4)　「英語ノート」を活用した外国語活動の指導の充実に関する研究のまとめ

２　授業実践の対象

花巻市立矢沢小学校　第５学年　２学級（男子 36 名　女子 38 名　計 74 名）
　　第６学年　２学級（男子 21 名　女子 34 名　計 55 名）

Ⅳ　研究結果の分析と考察

１　「英語ノート」を活用した外国語活動の指導の充実に関する基本構想

(1)　「英語ノート」を活用した外国語活動の指導の充実に関する基本的な考え方

ア　「英語ノート」を活用した外国語活動の指導の充実とは

「英語ノート」は，外国語活動の目標を達成するために国が作成した共通教材である。外国語活動の目標は，言語や文化についての体験的な理解，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度，外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみの三つが大きな柱となっている。「英語ノート」は，この目標の実現を図る指導の在り方を，具体的な活動として示したものである。

「英語ノート」を活用した外国語活動の指導の充実を図るためには，この目標を指導者が十分に理解した上で指導にあたることが求められる。

イ　「英語ノート」を活用した指導の実態

「英語ノート」の活用における主な課題として，以下の三つが挙げられる。

(ｱ)　活動のねらいが明確でない指導

「英語ノート」を活用した授業の多くは，「英語ノート」参考用教授資料として配布された「『英語ノート』指導資料」（以下「指導資料」と示す）に示された授業案に沿った授業展開であるが，「英語ノート」を十分に生かした指導にはなっていないことが多い。その理由は，「英語ノート」は学習指導要領に則り作成されたものではあるが，ただそれをこなしていれば学習指導要領の目標を達成できるものではないからである。そのことは，【表１】に示した梅本(2008)，直山(2009)，兼重(2009)の考えからもわかる。

【表１】「英語ノート」の活用に関する考え

梅本(2008)	直山(2009)	兼重(2009)
「これだけ教えておけばいい」とか，十分な教材研究をせず我流に授業をするなどを繰り返していると，子どもの英語学習嫌いを助長することになりかねない。	扱われている活動を次々とこなしたり，単にＣＤを聞いて答えさせたりするだけでなく，活動させたり，ＣＤを聞かせたりする中で，児童に英語と日本語，外国と日本の文化の違いや共通点に気付かせるようにします。	それをすればよい，前から順番にやればよいというふうになってしまうと，先生方にとってはとても簡単に見えるかもしれませんが，実は間違った使い方をしてしまったり，授業の組み立ての流れをうまく反映することができなかったりすることがあります

したがって，「英語ノート」を活用した指導においては，今，この活動は何のためにやっているのかという活動のねらいを指導者が把握することが重要である，ととらえることができる。

(ｲ)　スキルを習得することに偏重した指導

授業の展開部後半のみでコミュニケーション活動を仕組み，導入部と展開部前半でそれに向けた練習という授業構成を組んでいる授業が見られる。これは，最低限の音声や表現を身に付けなければ，その後のコミュニケーション活動を楽しむことができないという考えによるものである。「英語ノート」実践研究会(2009)は，スキルの習得を重視した構成の授業は，外国語活動の趣旨を生かす授業とは言えない，と述べている。実際に，スキル習得のためＣＤ音声をただ反復し唱える活動に多くの時間を費やし，コミュニケーション活動の時間が不足してしまう授業も少なくない。

(ｳ)　学級担任が英語運用に不安を抱えた指導

ＡＬＴの訪問回数に限りのある本県は，すべての時間をＡＬＴとのティーム･ティーチングで行うことは難しく，外国語活動の授業の大半が，学級担任単独による授業となる。しかし，「指導資料」の授業案は，すべてＡＬＴとのティーム・ティーチングとなっている。このため，学級担任は，ＡＬＴ不在時にはＡＬＴの分も自らが英語を使用しなければならないと考え，不安を抱えたまま，自身の英語運用能力以上の英語を話そうとする。その結果，学級担任は英語を話すことに気を取られ，活動の理解，活動の準備，児童の見とり等が不十分となりがちである。

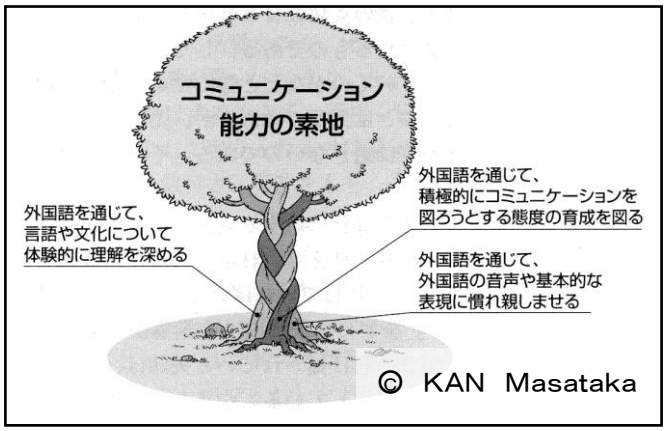
ウ　「英語ノート」を活用した指導に関する基本的な考え方

イに述べた指導の実態から，「英語ノート」は次の(ｱ)～(ｳ)に示すような考え方に立ち活用することが必要である。

(ｱ)　一つ一つの活動のねらいの明確化

活動のねらいが明確でない指導，スキルを習得することに偏重した指導に陥らないようにするためには，「英語ノート」の活動一つ一つに，目標の柱に沿ったねらいがあることを理解する必要がある。

右に示した【図１】は，菅(2008)が作成したコミュニケーション能力の素地のイメージ「素地の木」である。この図は，言語や文化に対する体験的に理解を深める指導，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る指導，外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる指導は，それぞれ別々に指導したり，どれか一点を重点的に指導したりすべきものではなく，常に統合的に一つとなって指導しなければならないことをイメージ化するために作成したものである。



【図１】コミュニケーション能力の素地のイメージ「素地の木」

しかし実際には，スキルの定着を目指した機械的な繰り返しやただ楽しいだけの活動が展開されていることが少なくない。これは，【図１】の考えの誤ったとらえによるものと考える。言語や文化について体験的に理解を深める指導，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る指導，外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる指導を，それぞれ別々に指導し，最終的にその三つがバランスよく指導されていればよい，という誤解が見られる。

「指導資料」には，活動のねらいが示されていない。本研究においては，「英語ノート」の活動一つ一つに，目標の柱に沿った三つのねらいがあるという考えに立ち，これを明確に提示することにより指導の充実を図る。

(ｲ)　学級担任の児童理解に基づく活動の工夫・改善

「指導資料」には，掲載している授業案について，「これはあくまでも例にすぎませんので，児童や学校の状況により，工夫改善していただければと思います。」と記されている。この工夫・改善を図ることは，児童や学校の状況をもっともよく知る学級担任の役割である。

学級担任は，児童と接することをとおして以下のことを把握している。

・児童の興味・関心や生活，他教科等で得ている知識や技能
・初めて学習する外国語への不安や緊張
・児童同士の人間関係

学級担任には，これらの児童の実態と，(ｱ)で述べた活動のねらいとを結び付け，工夫・改善を図ることが求められている。このことにより，「英語ノート」の活動が，児童にとってより充実した活動となるからである。「小学校外国語活動研修ガイドブック」（以下「ガイドブック」と示す）において，学級担任が「外国語活動に欠くことができない存在」とされているのは，こうした背景によるものである。

本研究の授業実践に際しては，対象となる学級の担任から児童の実態を聞きながら行うが，作成する授業案例においては工夫・改善の視点を例として示す。

(ｳ)　学級担任の実態に応じた英語運用

「指導資料」には，学級担任の用いる英語表現として多くの英語表現が示されている。その中に

は，難易度の高い表現も多く含まれている。さらに，「指導資料」にはＡＬＴの話す英語表現と学級担任が話す英語表現が明確に区分されていない箇所も多くある。このような部分の英語表現を，学級担任単独による授業の際にどのように扱ったらよいかは明確に示されていない。

外国語活動において学級担任に求められる英語表現には次の二つがある。

・学級担任に必ず英語の使用を求めている表現

・学級担任個々の英語運用能力に応じて使用を求めている表現

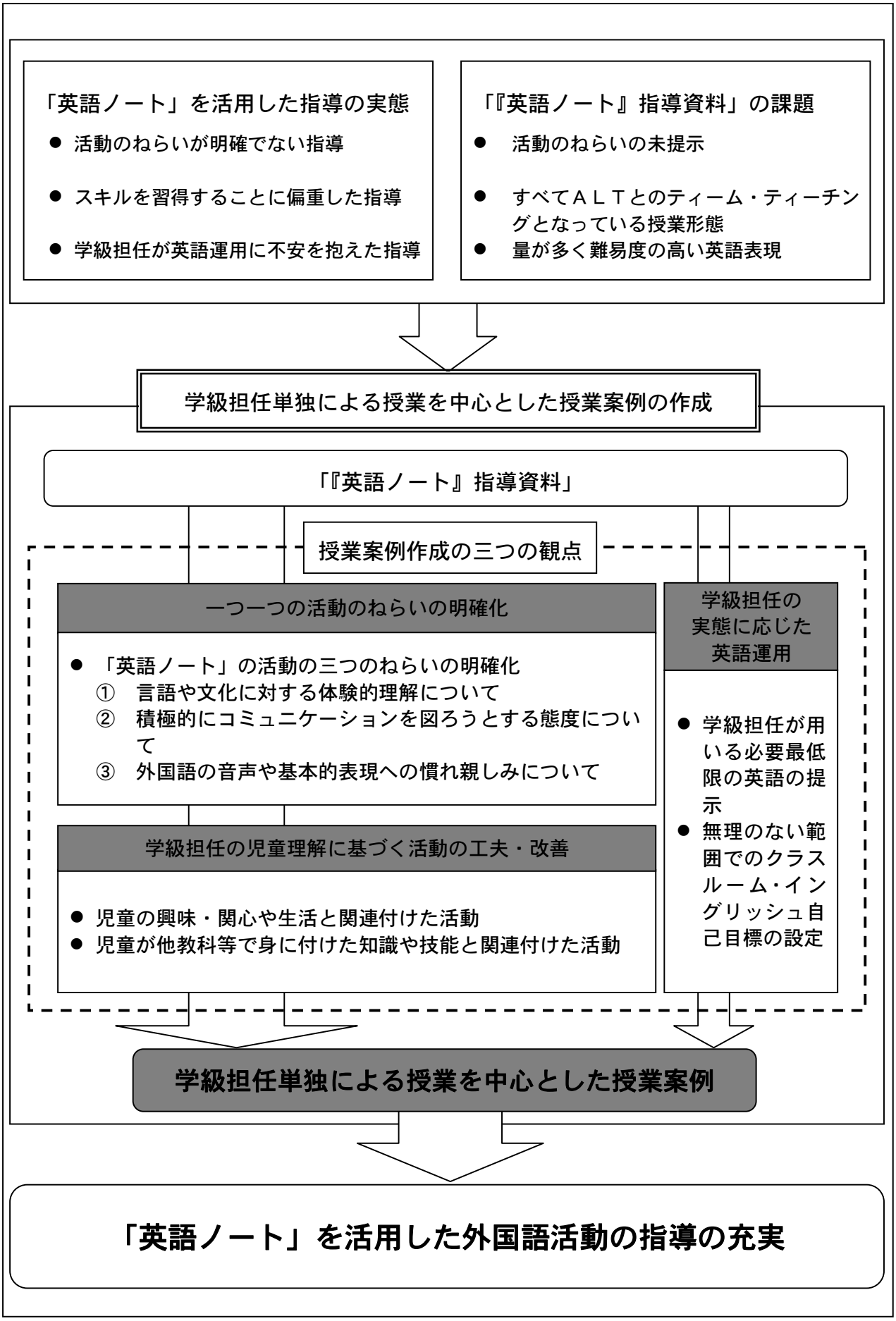
「指導資料」に示された学級担任の用いる英語表現は，この二つが混在された記載となっている。学級担任は，「指導資料」に示された英語表現のすべてを，学級担任に必ず英語の使用を求めている表現と誤解しがちである。合わせて，「ガイドブック」はクラスルーム・イングリッシュについて「指導者（日本人の教師）も，英語を使う良いモデルとして，児童の前でできるだけ英語を使うように努力したいものである。」と述べている。これらのことが，多くの学級担任の自らの英語運用能力以上に英語を使おうと考える原因となっている。

学級担任に必ず英語の使用を求めている表現とは，各単元の学習内容として設定された表現と主な語彙である。これらは，「指導資料」のレッスン扉に示されており，学級担任は事前に確認し，これらを使用するための準備を行うことができる。したがって，必ず英語で表現することを求めている。これが，学級担任が用いる必要最低限の英語表現である。

学級担任の個々の英語運用能力に応じて使用を求めている表現とは，クラスルーム・イングリッシュである。個々の英語運用能力は短期間で身に付くものではないため，自己研修が重要である。遠山・齊藤・上柿（2009）は，「『自己評価表』を作成し，ポートフォリオとしてファイリングしておけば，１年間の自己研修を振り返ることができ，授業改善に役立てることができる。」と述べている。この考えに基づき，本研究においても，無理のない範囲で自己目標に設定したクラスルーム･イングリッシュの運用に，「自己評価表」を活用し取り組むこととする。

(2)　「英語ノート」を活用した外国語活動の指導の充実に関する基本構想図

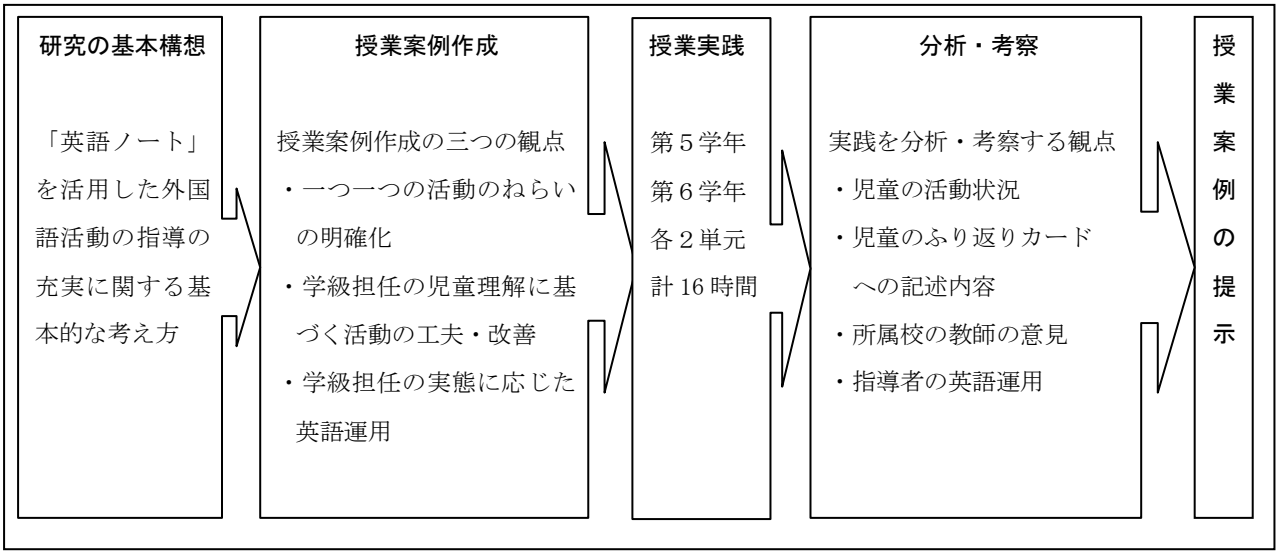
これまで述べてきた考えに基づき，「英語ノート」を活用した外国語活動の指導の充実に関する研究の基本構想図を５頁【図２】のように作成した。



【図２】「英語ノート」を活用した外国語活動の指導の充実に関する研究の基本構想図

２　授業案例作成・提示までの手順

「英語ノート」を活用した外国語活動の指導の充実に関する基本的な考え方に基づき「学級担任単独による授業を中心とした授業案例」を作成し，授業実践の分析・考察をとおして提示することとする。【図３】に，授業案例の作成・提示までの手順を示す。



【図3】授業案例作成･提示までの手順

３　授業案例の作成

授業案例作成に当たっては，「指導資料」を基に，以下に示す三つの観点から工夫を加えて作成することとする。

(1)　一つ一つの活動のねらいの明確化

授業案例の作成にあたり，「英語ノート」の活動のねらいの示し方を以下のア～ウに示す。

ア　言語や文化について体験的な理解を深める

学習指導要領では内容の項において，日本と外国の言語や文化について，体験的に理解を深めることができるよう指導事項として三項目を示している。単元計画には，「英語ノート」の一つ一つの活動がこの三項目のどの項目の具現化を図った活動であるかを項目番号で示す。単位時間の授業案例には，活動に合わせた具体的なねらいを示す。

イ　積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成

学習指導要領では内容の項において，積極的にコミュニケーションを図ることができるよう指導事項として三項目を示している。単元計画には，「英語ノート」の一つ一つの活動がこの三項目のどの項目の具現化を図った活動であるかを項目番号で示す。単位時間の授業案例には，活動に合わせた具体的なねらいを示す。

ウ　外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみ

「学習指導要領解説　外国語活動編（2008），内容の構成」には，「目標は，『言語と文化に関する事項』，『コミュニケーションに関する事項』，『外国語の音声や基本的な表現に関する事項』の三項目から成り立っているが，内容としては，１の『主としてコミュニケーションに関する事項』と，２の『主として言語と文化に関する事項』とで構成している。これは，外国語活動の目標を実現するためには，内容面では，異なる言語や文化を理解したり，他者と積極的にコミュニケーションを図ったりすることとし，こうした１及び２の内容に関する活動を外国語を通して行うことで，外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむことが大切である」と述べている。

このことに加え，「英語ノート」の一単元における活動の構成は言語習得の考えに立ち，聞く活動から口まねする活動，記憶したり自分のものにしたりする活動，自分の意思で選んで発話する活動という四種類の活動が直線状ではなく，何度も聞いたり話したり，を繰り返すスパイラル状に配列されている。指導者は，この単元全体の流れを理解し指導に当たる必要があることから，本研究においては単元の概要に「活動の種類」を示す。ただし，口まねする活動と記憶したり自分のものにしたりする活動については，一括し「言い慣れる活動」として扱う。これは，記憶という言葉が機械的な繰り返し練習をイメージさせることによる混乱を防ぐためである。

(2)　学級担任の児童理解に基づく活動の工夫・改善

単位時間の授業案例に，学級担任の児童理解に基づいた「英語ノート」の活動への工夫・改善を示す。【表３】は，本研究における学級担任の児童理解に基づく活動の工夫・改善について示したものである。

【表３】本研究における学級担任の児童理解に基づく活動の工夫・改善

目的・内容 視点	目的	工夫・改善に生かす 学級担任の特性とその内容
「他教科等との関連」	児童の活動への積極性を高める。	【特性】児童の他教科等で得ている知識や技能，経験について理解している。 【内容】他教科における学習内容等との関連を図る。
「題材・素材」		【特性】児童の生活や興味・関心について理解している。 【内容】児童の興味・関心を高める題材等を取り入れる。
「表現・語彙の調整」	児童に無理や負荷を与えることなく外国語の音声や基本的な表現に慣れ親ませる。	【特性】児童の外国語への不安の把握に必要な，態度や行動観察の視点を持っている。 【内容】使用語彙や表現内容の調整を図ったり，あせらずじっくり外国語に慣れ親しませる環境を作ったりする。
「活動の見通し」		
「関わりの場」	互いに関わりあいながら英語に慣れ親しませる。	【特性】児童同士の人間関係，性格や行動を把握している。 【内容】関わり合うことを楽しいと感じるような児童同士，あるいは児童と学級担任との関わりの場を設ける。

(3)　学級担任の実態に応じた英語運用

単位時間の授業案例に，指導者である学級担任が用いる必要最低限の英語表現として，単元の学習内容として設定された表現や語彙を示す。クラスルーム・イングリッシュについては指導者個々が自らの英語運用能力に応じて設定するものであるが，参考として毎時間使用する指示に関するクラスルーム・イングリッシュを示す。（例. Open your textbook to page ○○. Let's chant.等）

４　授業実践及び実践結果の分析と考察

基本的な考えに基づいて作成した授業案例（補助資料参照）に従い，【表４】のとおり授業実践を行うこととした。

【表４】授業実践の計画

	授業実践Ⅰ	授業実践Ⅱ	授業実践Ⅲ	授業実践Ⅳ
実践期間	平成 21 年７月７日 ～７月 17 日	平成 21 年８月 24 日 ～９月８日	平成 21 年９月 15 日 ～10 月 13 日	平成 21 年 11 月５日 ～11 月 20 日
学　　年	第６学年(28 名)	第５学年(38 名)	第６学年(29 名)	第５学年(37 名)
単 元 名	英語ノート・２ Lesson４ できることを紹介しよう	英語ノート・１ Lesson５ いろいろな衣装を知ろう	英語ノート・２ Lesson６ 行ってみたい国を紹介しよう	英語ノート・１ Lesson６ 外来語を知ろう
時　　数	４時間	４時間	４時間	４時間
授業形態	第１時　学級担任単独 第２時　学級担任単独 第３時　学級担任単独 第４時　学級担任単独	第１時　ＡＬＴとのＴ･Ｔ 第２時　学級担任単独 第３時　学級担任単独 第４時　学級担任単独	第１時　ＡＬＴとのＴ･Ｔ 第２時　学級担任単独 第３時　学級担任単独 第４時　学級担任単独	第１時　学級担任単独 第２時　学級担任単独 第３時　学級担任単独 第４時　学級担任単独

ここでは，授業実践Ⅲにおける計画及び概要を示し，考察を加えていくこととする。

(1)　対象及び授業実践期間

ア　対象　花巻市立矢沢小学校　第６学年　１学級（男子 11 名　女子 18 名　計 29 名）

イ　授業実践期間　平成 21 年９月 15 日～10 月 13 日

(2)　単元計画

ア　単元名　英語ノート・２　Lesson６　「行ってみたい国を紹介しよう」

イ　単元の目標

(ｱ)　世界にはいろいろな英語が話されていることに興味を持つ。

(ｲ)　自分の思いがはっきり伝わるようにスピーチをしたり，積極的に友だちのスピーチを聞いたりしようとする。

(ｳ)　理由を含めて，自分が行ってみたい国を発表する。

ウ　単元で扱う表現及び主な語彙

表現：I want to go to ～. Let's go.

語彙：Italy, Japan, China, Korea, Brazil など

エ　単元の概要

時	本時の目標	本時の活動	指導事項		活動の種類 ◎主，○副		
			1 コミュニケーション	2 言語や文化	聞く	言い慣れる	発話する
1	様々な英語があることを知る。	**Let's Listen1**　４人の自己紹介からわかったことを聞こう。	(2)	(1)	◎		
		Let's Listen 2　どの国旗がどの国かあてよう。	(3)	(2)	◎		
		Let's Chant（一回目）♪I want to go to Italy♪	(2)	(1)	◎	○	
2	行きたい国やその理由についてのまとまった話を聞いて，その概要を理解する。	**Let's Chant（二回目）**♪I want to go to Italy♪	(2)	(1)	○	◎	
		Let's Listen 1　CD を聞いてカードを順に並べよう。	(2)	(2)	◎		
		Let's Play　ビンゴ･ゲーム	(2)	(2)	◎	○	
		Let's Listen 2　CD を聞き，子どもたちが行きたい国と理由とを線で結ぼう。	(3)	(2)	◎		
		まとめの活動　指導者の行きたい国とその理由の紹介を聞き，その国に行きたいかを答える。	(1)	(1)		◎	○
3	行きたい国を尋ねたり，尋ねられたり答えたりする。	**Let's Chant（三回目）**♪I want to go to Italy♪	(2)	(1)		◎	
		Let's Listen　CD を聞いてわかったことを書こう。	(3)	(2)	◎		
		Activity1（準備）　自分が行ってみたい国について，国旗とその理由とをかいて紹介しよう。（準備）	(1)	(1)		◎	○
4	行きたい国をその理由とともに発表したり，相手の行きたい国やその理由を理解したりする。	**Let's Chant（四回目）**♪I want to go to Italy♪	(2)	(1)		◎	
		Activity1　自分が行ってみたい国について，国旗とその理由とを書いて紹介しよう。	(2)	(1)			◎
		Activity2　友だちのスピーチを聞いて，行きたい国を知ろう。	(1)	(2)	◎		

指導事項

1　外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図ることができるよう，次の事項について指導する。

(1)　外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験する。

(2)　積極的に外国語を聞いたり，話したりすること。

(3)　言語を用いてコミュニケーションを図ることの大切さを知ること。

2　日本と外国の言語や文化について，体験的に理解を深めることができるよう，次の事項について指導する。

(1)　外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに，日本語との違いを知り，言葉の面白さや豊かさに気付くこと。

(2)　日本と外国との生活，習慣，行事などの違いを知り，多様なものの見方や考え方があることに気付くこと。

(3)　異なる文化をもつ人々との交流などを体験し，文化等に対する理解を深めること。

(3)　単位時間の授業案例

本研究の基本的な考えに沿って作成した「英語ノート・２」Lesson 第３時の授業案例を【資料１】に示す。

【資料１】　「英語ノート・２」Lesson６　第３時　授業案例

英語ノート・２　Lesson６　第３時	目標／行きたい国を尋ねたり，尋ねられて答えたりする。
学級担任の活動	**活動のねらい**
あいさつ，本時の確認など(3)	積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成 言語や文化について体験的に理解を深める
Let's Chant(5) 1. 今日は先生の行きたい国とその理由でチャンツをしましょう。先生はイタリアに行ってスパゲティを食べて，ナポリの夜景を見たいです。 2. Let's Chant..	目的（他者の行きたい国とその理由を聞く）をもち聞く態度を育てる。 日本語とのリズムの違いに気付かせる。
Let's Listen(10) 3. Open your textbook to page 40. 4. ３人のスピーチを聞いてわかったことをふき出しに書きましょう。 5. 「相手の話は黙って聞く」という聞き方は，国によっては「失礼」と思われることもあります。ではどのような聞き方が良いか先生がやってみます。 （ＣＤの音声に対しコメントや質問を述べる。） 6. 相手の話に対するコメントや質問は，あなたの話をちゃんと聞いていますということを伝える働きがあります。 7. それでは，先生のスピーチにコメントや質問をしてみましょう。 Hello. I want to go to (Egypt). I want to (see) (camels). Thank you.	相手の話にコメントしようとする態度を育てる。 「よい聞き方」が，文化により異なることに気付かせる。 外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみ
Activity1　準備(25) 8. Open your textbook to page 41. 9. 次の時間は，みんなの行きたい国とその理由を発表しますから，これからその準備をしましょう。 10. 準備ができた人から，先生に行きたい国とその理由を聞かせに来てください。 11. 先生へ話し終えたみなさんは，友だちの行きたい国と理由を聞いてコメントや質問をするのに挑戦してみましょう。	話をしっかり聞き的確なコメントを返してみようとする態度を育てる。 自分の話にコメントが得られる喜びに気付かせる。
ふりかえり，あいさつ(7) 12. （本時の活動について，児童が気付いた言葉や文化に関すること，望ましいコミュニケーションを図ろうとする態度を具体的に評価する。） 13. ふり返りカードに今日の感想を書いてください。	

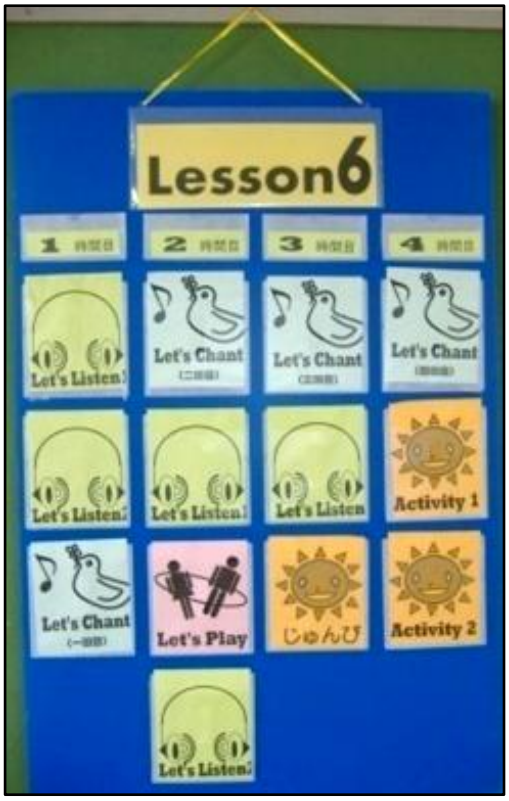
(4)　本時における児童理解に基づく活動への工夫・改善の計画

本時の活動のねらいと，授業実践の対象となる学級の担任への聞き取り調査により得た児童の実態を基に，【表５】のように活動への工夫・改善を計画した。

【表５】本時における活動への工夫・改善

目的・内容 視点	目的	工夫・改善に生かす 学級担任の特性とその内容
「他教科等との関連」	児童の活動への積極性を高める。	【実態】昨年度実施したアンケートから，ただ黙って聞くことは楽なので好きと感じる児童が多いという傾向が見られた。反応を示しながら聞く，という活動に抵抗を示す児童がいると予想される。 【内容】反応を示しながら聞くことへの導入を丁寧に行い，意欲の向上を図る。
「題材・素材」		
「表現・語彙の調整」	児童に無理や負荷を与えることなく外国語の音声や基本的な表現に慣れ親ませる。	【実態】外国語活動への意欲はあるものの，外国語を話すことへの不安や自信の無さにより，話すことに消極的になる児童がいる。 【内容】その国に行きたい理由の表現と相手の話に対するコメントや質問は日本語でよいこととし，英語による表現は“I want to go to～．”のみとする。
「活動の見通し」		【実態】一単位時間ごとの「できた」，「できない」に一喜一憂する児童が多い。 【内容】単元全体の計画（【写真１】参照）を提示し，単元全体の活動への見通しをもたせる。
「関わりの場」	互いに関わりあいながら英語に慣れ親しませる。	【実態】作業時間の差が大きいことから，作業の速い児童同士，ゆっくりな児童同士のコミュニケーション活動になることが多い。 【内容】Activity1 の準備を終えた児童が，準備中の児童に行きたい国とその理由を話してもらい，それに対してコメントや質問を述べる練習をする活動形態にする。

【写真１】児童に提示した単元全体の計画



(5)　授業実践の概要

作成した授業案例に基づく授業実践の概要を 13～15 頁の【資料２】に示す。

【資料２】　「英語ノート・２」Lesson6 第３時の実践概要（抜粋）

活動の様子

教師の言葉，児童の言葉　工夫・改善の方法・内容　指導者の英語運用　**指導者が用いたｸﾗｽﾙｰﾑ･ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭ**

去年やったアンケートでは，「聞くのは好きだけど，話すのは嫌い」と答えた人が多かったです。話すのは大変だけど，聞くのは黙っていればいいから楽だと思ってそう答えた人が多かったんじゃないかなと思います。

日本では，「人の話は黙って聞く」というのが大事とされていますよね。でも，世界には人の話を黙って聞くのは失礼だと考える国もあります。そこで今日は，今までとは違う人の話の聞き方に挑戦したいと思います。

工夫･改善
「他教科等との関連」

児童の生活（前年のアンケート結果）を踏まえた活動への導入の仕方を工夫する。

「英語ノート」の友だちの話を聞いている場面を見ると，やっぱり黙って聞いてはいないですよね。じゃあ，どんことを話しているのだろう？先生がちょっとやってみたいと思います。

①（電子ソフト）Hello, everyone.

②Hi, Sachi-san.
Hello.

③（電子ソフト）
I want to go to China.
I want to see pandas in China.

④先生もパンダ大好きです。
大きな声のいい発表でしたね！

⑤（電子ソフト）
Thank you.

工夫･改善
「表現・語彙の調整」

英語への不安や自信の無さにより話すことに消極的になる児童がいることから，相手へのコメント･質問は日本語でも良いこととする。

これから先生がスピーチしますので，先生のスピーチにコメントや質問をしてみましょう。

Hello, everyone.
I want to go to Egypt.
I want to see camels.
Thank you.

英語運用（必要最低限の英語）
単元に学習内容として設定された表現・語彙は用いることができるよう準備した。

先生はラクダを見たいと言っていましたが，私もエジプトに言ってラクダを見たいと思いました。

英語運用（クラスルーム・イングリッシュ）
自己の能力に合った，児童の顔を見ながら，動作（ハイタッチ）も交えて用いることができる「ほめるクラスルーム・イングリッシュ」を使用した。

先生はエジプトに行ってラクダを見たいと言っていましたけど，ぼくはエジプトに行ったらピラミッドを見たいと思います。

Thank you!

（Activity１の準備の指示を出し，）
準備が終わった人は，英語ノートをもって先生の所に来て，お話を聞かせてください。
先生からＯＫをもらったなら，良い聞き手になるための修行に出てもらいます。友だちに「いいコメント出したいから，話を聞かせて！」と言って，話してもらいましょう。OK. Let's start!

工夫・改善
「関わりの場」

①話すことに消極的な児童がいることから，指導者を相手にした発話を最初に位置付け，発表への不安の解消と同時に，自分の話にコメントを得る喜びを実感する場とした。
②作業時間の差により児童の交流の範囲が限定されることから，作業の速い児童の交流を意図的に設定した。

I want to go to China.
I want to see 万里の長城.

先生も万里の長城に行ってみたいな！

I want to go to Australia. I want to see Koalas.

オーストラリアに行きたいの？私と同じだね！

児童の感想（ふり返りカードへの記述）

右に示したものは，本実践で使用した「ふり返りカード」である。活動にねらいをもたない指導やスキルを習得することに偏重した指導を行った場合には，児童のカードへの記述は，「～が言えるようになった」「～を覚えた」という英語のスキルに関する記述が増加傾向を示す。このことから，カードへの記述内容を，指導のふり返りに生かした。【表６】に本時における児童の記述した感想を示す。

英語ノート・2 Lesson6 行ってみたい国を紹介しよう 6年（ ）組 氏名（ ）

	今日の感想（新しく気付いたことや友だちのいいところなど）	先生から
1		
2		
3		
4		

【表６】　本時におけるふり返りカードへの児童の記述

	積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成をうかがわせる記述		言語や文化についての体験的な理解が深まったことをうかがわせる記述
児童の記述した感想	行きたい国の言い方がわかったし，いろいろな人と話ができたので良かったです。	コメントを言うのは難しかったけど楽しかったです。	私と同じオーストラリアに行きたい人が四人もいて，しかも見たいところが同じ人もいてびっくりしました。
	友だちの行きたい国やその国に行きたい理由がわかってよかった。とても楽しかった	どこの国に行きたいかを話したら「私も行きたい！」などと言ってくれたのでうれしかったです。	コメントや質問を言うのは難しかったけど，イタリアの他にも行ってみたい国が増えました。
	友だちの行きたい国や行きたい訳が分かって楽しかったです。	自分でしゃべるのを聞いて「すごいね！」とか言ってくれるとうれしかったです。	僕はフランスに行きたいと思っていましたが，友だちの話を聞いてフランスに行きたい理由が増えました。
	いろいろな人とスピーチが出来て良かったし，いろいろな人の行きたい国，やりたいことや見たい物，食べたい物が分かって良かったです。	コメントしたら友だちが喜んでくれたことがうれしかったです。	みんなの行きたい国を聞いて，そう言われてみれば僕も行ってみたいなと思う国がたくさんありました。
	自分の行きたい国も言えたし，友だちへのコメントもきちんとできたし，楽しかったです。次もがんばりたい。	いろいろな人に質問したり，コメントしたりして楽しかったです。	行きたい国がもっと増えました。

(6)　実践結果の分析と考察

本実践について，児童の活動状況やふり返りカードへの記述，所属校の教師の意見，授業場面における指導者の英語運用の記録を基に分析・考察を行った。

ア　一つ一つの活動のねらいの明確化について

ふり返りカードへは，すべての児童が記述をしていたが，そのうちの約７割の児童に，言語や文化についての体験的な理解，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成に関する記述が見られた。このことから，活動のねらいを明確にし指導に当たることは，児童のコミュニケーション活動への楽しさの実感や，友だちと考えを交流し合うことをとおして多様な考えに触れるよさの実感を伴う活動の展開に効果があったと考えられる。なお，言語や文化についての記

述には，日本と外国の間だけに限定せず，同じ学級の児童間における多様な見方や考え方への気付きも含めている。これは同じ学級の児童同士であっても多様な見方や考え方があることに気付き受容すること，そして考え方に違いがあってもコミュニケーションを取れば分かり合えると気付くことが，異文化をもった人々とのコミュニケーションにもつながるという考えに立つものである。

所属校の教師に聞き取り調査を行ったところ，一つ一つの活動のねらいの明確化について以下のことが指摘された。

○相手の話に対しコメントや質問を述べることは「指導資料」では，数ある指導上の留意点の一つとして示されているものなので，これまで強く意識をしていなかった。しかし，活動の三つのねらいを理解することにより，ここが大事であることが分かった。

○活動のもつ三つのねらいを理解できると，電子ソフトの音声も途中で止めたり，聞かせる順番を変えたりするような工夫・改善を図る必要性に納得ができた。

○活動のねらいを理解して工夫・改善を図るためには，単元全体を見通す必要があることがわかった。

○これまでの自分は，一時間勝負の授業スタイルであり，単元を見通した流れを理解していなかったことに気が付いた。

これらの指摘から，活動のもつ三つのねらいを明確に示すことは，授業に臨む指導者の意識を，活動のねらい及びそのねらいを達成するための工夫・改善，単元全体を見通した指導に向けさせる効果があると思われる。

イ　学級担任の活動への工夫・改善について

指導者を相手にした発話場面においては，すべての児童が自ら指導者に対して行きたい国とその理由を伝えに来た。児童同士の伝え合い場面においても，伝え合うことができないままでいる児童がいなかった。これは，行きたい国の理由は日本語で伝えてよいことにした点，及び指導者と児童，児童同士の関わりの場の設定を工夫したことが効果的であったためと考えられる。

所属校の教師に聞き取り調査を行ったところ，学級担任の活動への工夫・改善について以下のことが指摘された。

○子どもたちがいつもより積極的に話そうとしていた。

○安心感をもって伸び伸びと話そうとしていた。

○児童に単元全体の活動の見通しをもたせることにより，児童は安心して活動に取り組んでいた。

これらの指摘から，学級担任が児童理解に基づいて活動に工夫・改善を図ることは，児童の活動への積極性を高めたり，児童が安心感をもち英語を話したりすることに効果があると思われる。

ウ　学級担任の実態に応じた英語運用について

授業場面における指導者が必要最低限の英語表現を用いる場面では，動作や映像資料も交え，児童の目を見て，児童の理解状況を確認しながら英語を用いることができていた。これは指導者が用いる英語表現を事前に把握し，その使用に向けた準備によるものである。児童を見とりながら英語運用ができたことにより，児童のつぶやきや行動に対してその場その場での働きかけもより多く行うことができた。

自己目標に設定したクラスルーム・イングリッシュを用いる場面では，計画どおり運用することができていなかった。これは，自己の英語運用能力以上のクラスルーム・イングリッシュを目標としたためと考えられる。しかし，実際に授業場面で使用できた数少ないクラスルーム・イングリッシュについては，動作も交えながら，児童の目を見て用いることができた。このことから，指導者

は自己の英語運用能力に合ったクラスルーム・イングリッシュを目標に設定すれば，授業場面において児童を見とりながら用いることができると考えられる。

所属校の教師に聞き取り調査を行ったところ，学級担任の実態に応じた英語運用について，以下のことが指摘された。

○指導者はとにかく英語を話さなければいけないのかと思っていたが，指導者が用いる英語表現には，必要最低限の英語と自分の能力に応じて使用するクラスルーム・イングリッシュの二つがあることが分かり，気持ちが楽になった。

○これまで自分の英語運用ばかりに気を取られていたが，自分の能力に合わせ無理のない範囲でよいことが分かったので，その分，児童の気付きを生みだす努力をしたいと思った。

これらの指摘からは，「指導資料」に示された指導者が用いる英語表現から，指導者の用いる必要最低限の英語表現だけを整理し提示することが，指導者が抱える英語運用への不安感を和らげる効果があると思われる。

以上のことから，一つ一つの活動のねらいの明確化，学級担任の児童理解に基づいた活動の工夫・改善，学級担任の実態に応じた英語運用を観点に作成した授業案例は，外国語活動の指導の充実に効果的であると考えられる。

５　「英語ノート」を活用した外国語活動の指導の充実に関する研究のまとめ

本研究は，学級担任単独による授業を中心とした授業案例を作成して提示し，外国語活動の指導の充実を図ろうとするものであった。成果と課題を以下にまとめる。

(1)　成果

ア　外国語活動の目標の柱に沿って「英語ノート」の活動がもつ三つのねらいを明確にしたことにより，そのねらいを達成するために，児童に気付かせたい事柄，育成を図りたい児童の態度を意識した指導を行うことができた。

イ　児童理解に基づく活動への工夫・改善を図ったことにより，「英語ノート」の活動をとおして，児童にコミュニケーション活動への楽しさや，多様な考えに触れる良さ等を更に深く味わわせることができた。

ウ　学級担任が用いる必要最低限の英語を明確にしたことにより，その英語を用いるための準備を十分に行った上で授業に用いることができた。

エ　「指導資料」を基にして，一つ一つの活動のねらいの明確化，児童理解に基づく活動への工夫・改善，授業者の実態に応じた英語の運用の三つを観点として作成した授業案を用いた指導により，学級担任単独による授業の充実を図ることができた。

(2)　課題

児童の実態に基づく活動への工夫・改善をより充実させるために，学級担任が児童を見とる観点の明確化を図る必要がある。

Ⅴ　研究のまとめと今後の課題

１　研究のまとめ

本研究は，「英語ノート」を効果的に活用するための授業案例を作成し，授業実践を行った上で提示することで，外国語活動の指導の充実に役立てようとするものである。そのために，基本構想を立案し，外国語活動の指導の充実を図る授業案を作成し，授業実践を行った。その結果，授業案

例作成の観点が明らかになり，「英語ノート」を効果的に活用するための授業案例を作成することができた。

なお，成果として次のことを得ることができた。

(1)　「英語ノート」を活用した外国語活動の指導の充実に関する基本構想の立案

基本構想の立案において，「英語ノート」を活用した指導について，指導の現状への改善という観点から，基本的な考え方をまとめることができた。

(2)　外国語活動の指導の充実を図る授業案例の作成

基本構想において明らかになった基本的な考え方に基づき，一つ一つの活動のねらいの明確化，学級担任の児童理解に基づく活動の工夫・改善，学級担任の英語運用能力の実態に応じた英語運用の三つを授業案例作成の観点とし，授業案例を作成することができた。

(3)　授業実践及び実践結果の分析と考察

授業案例を使用し授業実践を行った。授業実践の分析と考察をとおして，一つ一つの活動のねらいの明確化，学級担任の児童理解に基づいた活動の工夫・改善，学級担任の実態に応じた英語運用を観点に作成した授業案例は，外国語活動の指導の充実に効果的であることが確かめられた。

(4)　「英語ノート」を活用した外国語活動の指導の充実に関する研究のまとめ

授業実践の分析と考察から明らかになったことをまとめ，「英語ノート」を活用した外国語活動の指導の充実について成果と課題を明らかにすることができた。

２　今後の課題

本研究においては，四単元の授業案例の提示にとどまっていることから，今回示した考えに基づいて，残る単元の授業案例を作成する必要がある。

＜おわりに＞

長期研修の機会を与えてくださいました関係諸機関の各位並びに所属校の諸先生方と児童のみなさんに心から感謝を申し上げ，結びの言葉といたします。

【引用文献】

梅本龍多（2008)，「従来のカリキュラムに『英語ノート』を導入して行う英語活動」，『英語教育』９月号，大修館書店，pp. 26-27

菅正隆（2009)，『小学校英語わいわいガヤガヤ玉手箱』，開隆堂，p. 73

菅正隆（2008)，『すぐに役立つ！小学校英語活動ガイドブック』，ぎょうせい，p. 1

遠山秀樹・齊藤義宏・上柿剛（2009)，『小学校外国語活動の推進に関する研究－モデルカリキュラムと校内研修プログラムの作成をとおして－』，岩手県立総合教育センター，p. 18

直山木綿子（2009)，「木綿子先生の小学校・英語活動のお悩みＱ＆Ａ」，『英語教育』６月号，大修館書店，pp. 50-51

文部科学省（2008)，『小学校外国語活動研修ガイドブック』，p. 17

【参考文献】

「英語ノート」実践研究会（2009)，『平成 20 年 20 度小学校新学習指導要領ポイントと学習活動の展開外国語活動』，東洋館出版社

大城賢・直山木綿子（2008)，『小学校学習指導要領の解説と展開，外国語活動編』，教育出版

兼重昇・直山木綿子（2008)，『小学校新学習指導要領の展開，外国語活動編』，明治図書